



←すべての記事は
こちらから



都筑こどもニュース



Tsuzuki Children's News



都筑区長に インタビュー



佐藤友也区長は以前は磯子区で副区長をしていました。5年前に都筑区の福祉の部署で仕事をしてきたことがあり、都筑区に来られたことはとてもうれしかったとのこと。区長は市役所職員の中からふさわしい人が市長さんから指名されます。佐藤区長は「区長の仕事は責任重大なので緊張します。でも楽しいです」と話してくれました。(2021.7.29)

まちのシンボル 「あいたい」



センター北駅にある「あいたい」は、「株式会社横浜都市みらい」が運営しています。駅に直結していて便利なので、多くの地域の人に利用されています。「あいたい」では、プラスチック削減のためカサ袋をなくし、カサについた水滴を取る道具を置いています。レジ袋削減のためにふるしきをプレゼントするキャンペーンも行っていました。また従業員用の

自動販売機では「伊藤園」と提携して、容器がへこみ賞味期限が近い、廃棄されるはずだった飲料を販売しています。これらは食品ロスの削減につながります。「横浜都市みらい」は、まちづくりをする会社でもあります。センター南駅前のストリートピアノの運営やセンター南駅出ですぐの場所をライブスポットとして、市民に提供しています。(2021.8.21)

ボストン在住ジュニア 記者からのレポート



「The Public Library of Brookline」という図書館を紹介します。1850年に町の立法機関であるBrooklineのタウンミーティングの投票で定められ、図書館が建設され、1890年4月には、子ども専用エリアがつけられました。設計はボストンの著名な建築家であるR.クリップストーン・スタージスが担当しました。図書館で働く司書は図書館学の修士号を習得することが義務付けられています。図書館では1年中たくさんのイベントを開いています。3Dプリンターで工作したり、Tシャツ染め体験なども行っています。(2021.9.11)

仕事への思い ウスイヒロシさん

都筑区に住んでいる映像監督ウスイ

ヒロシさんをZoom取材しました。仕事は主に2つあり、とりたい表現を考え、企画書に書くことと、多くのスタッフと協力してビデオをとることで。ウスイさんは高校の時から音楽が好きでした。映像関係の会社に就職を目指しましたが、残念ながら落ちてしまいました。撮影のアルバイトを続けることで、だんだんと仕事が増えフリーランスとして仕事をするまでになりました。「この仕事が好き」という言葉が印象的でした。この取材を通して、ウスイさんの仕事への情熱を見習いたいと感じました。私たちも楽しんで仕事をできる未来にしたいです。(2021.9.19)



ナポリタンの名店 「ぼてぢゅう」

「ぼてぢゅう横浜ランドマーク店」で体験取材し、本物の鉄板でナポリタンを作らせてもらいました。まず野菜を炒めて、麺を上に乗せ、隠し味のコンソメを入れます。鉄板に卵を落とし割るという斬新な方法で、目玉焼きを作りました。ケチャップを麺に絡め、溶かしたバターを混ぜ、目玉焼きを上に乗せたら完了です。食べてみるとあつあつのナポリタンは美味しかったです。「ぼてぢゅう」の店員さんはとても手際がよくてす

ごいなと思いました。鉄板の前はとても熱くて、ここでずっと料理をするのはとても大変だと思いました。



「ぼてぢゅう横浜ランドマーク店」のナポリタンは、日本ナポリタン学会に認定されています。日本ナポリタン学会とは、横浜の食を盛り上げるために2009年に設立されました。認定しているのは、ほとんど横浜市内のお店で約20店舗が認定店になっています。ナポリタンを最初に考案したのは、「ホテルニューグランド」2代目総料理長の入江茂忠さんです。その後、昭和の代表的な食べ物だったことから昭和の日の4月29日が、ナポリタンの日として記念日認定されました。(2021.10.24)

デザインが光る みなとみらい線



みなとみらい線は、営業距離4.1kmと短い鉄道です。計画は40年前で、1981年に「横浜市新総合計画(よこはま21世紀プラン)」によって建設が決定しました。それから約20年後の2004年に開業しました。み

なとみらい線の魅力は個性的な駅のデザインです。例えば、元町・中華街駅のテーマは「グラフィカルな1冊の本」です。壁には横浜の歴史が感じられる写真が描かれていて、博物館のように楽しむことができます。みなとみらい駅のテーマは「アーバンギャラリー」と「船」です。駅には、船を思わせるコンコースがあります。ホームには、地上を思わせる街灯があり、クイーンズスクエアと駅が吹き抜けになって一体化しています。(2021.10.26)

新聞の魅力 ニュースパーク

日刊新聞は150年前に横浜で生まれました。そして発祥の地、横浜にニュースパーク(日本新聞博物館)がつくられました。「博物館は、現代を生きる私たちが、未来を考えると

きに人類の足跡である歴史をたどることのできる場所」と館長さん。



ここでは、新聞の歴史や技術の進化について、資料や映像をみて学ぶことができます。新聞閲覧室で自由に新聞を読んだり、オリジナルの新聞を作る体験もできます。今はインターネット上でもニュースは見られますが、そこには膨大な量の情報があふれていることもあり、正しい情報かどうか、常に確かめる必要があります。今回取材をしてみて、新聞はわかりやすく正確な情報を伝えるための役割があり、大切なメディアな

のだとわかりました。(2021.12.1)

「アイネット データセンター」



横浜市内にある創業50年を迎えたIT企業の「アイネットデータセンター」取材しました。データセンターとは、サーバーなどのIT機器を収容しているところです。「アイネット」はガソリンスタンドの事務計算代行からスタートしました。その後金融や制御、製造、流通やサービス、通信、メディア、建設・不動産など様々な分野に広がっていき、現在では宇宙の取り組みにまで関

わっています。取材で一番驚いたのは、頑丈なつくりの建物です。海抜も高く、活断層を避けしっかりと免震構造になっています。地下で建物を支えるのは鉄と天然ゴムを交互に重ねてつくられた積層ゴムです。この積層ゴムの力で、揺れをおさえ地震の運動エネルギーをまさつで熱エネルギーに変え力を分散させます。問題は停電の時ですが、そんな時は屋上にある自家発電機が自動的に起動します。燃料は重油で、蓄電池が切れる前におよそ35秒で6,600Vの電気を作ることができて、地下にある大容量の重油タンクで数日間持ちます。「アイネット」のデータセンターは、大切なデータを守るために、たくさんの仕組みや努力によって成り立っていることが分かりました。(2021.12.27)

GOGB! がんばれ、英国!

東京オリンピックパラリンピック2020において、英国の事前キャンプ地「横浜国際プール」のある都筑区で活動するジュニア記者が、英国を知るための取材をしてきました!

GOGBの記事は横浜市役所公式HPから(英訳あり)⇒



横浜国際プールを取材

オリンピック期間中の7月、横浜国際プールの館長の吉田さんと英国代表競泳のコーチのチームコーチにお話を伺いました。横浜国際プールは、国内最大級のプールです。プールは床の高さを調節することができ、一番深いと3.5mの深さになります。長さ50mのメインプール、5mの飛び込みダイビングプールとサブプールがあり、サブプールは50mのプールを25mの2つに分けることができます。館長の吉田さんは、国際プールで練習している英国選手がメダルをとると、自分のことのようにうれしくなる、と話してくれました。チームコーチは水泳を通して世界中を旅しています。日本の食べ物で好きなものはギョーザだそうです。(2021.7.28)



横浜ホストタウンサポーター感謝会

イギリス館で行われた英国代表選手をサポートするボランティア(以下、サポーターと略す)の感謝会を見学しました。サポーターの活動は、個別オリエンテーション、オンラインセミナー・説明会を含めて52日間におよんだそうです。サポーターから、「経験が豊富になった」「英語の勉強になった」「自分が役に立てるかわからなかったけど、今は誇らしい気持ちだ」「選手団からコロナの感染者が出なくてほっとした」という感想や「英国と日本両方応援できて楽しかった」「英国の金メダルを取った選手のインタビューでサポーターのおかげで金メダルが取れた、と言ってもらえてうれしかった」などの声がありました。お話をきいて、オリンピック・パラリンピックサポーターをやってみたくなりました。(2021.11.30)

読売新聞は学びの味方
身につけよう! 未来の見方
新聞の読み方

新聞を「読む」トレーニングは、知らず知らずのうちに「語彙力」「読解力」を養う事になり、大学入試はもちろん、高校・中学・小学校の授業においても「新聞を読んでいる子」は有利になります。

新聞を読む子どもは学ぶ力が高い! まずは無料お試し読みを!

読売こども新聞
楽しく読めて、
学習にも役立つ!
毎週木曜日発行
月550円(税込)

読売中高生新聞
10代の「知りたい」に
こたえる!
毎週金曜日発行
月850円(税込)

TEL.0466(50)5088

CO-OP共済 No.1
子ども向け共済契約数 No.1
270万人が加入する子どもの保障 (2021年3月時点)